医療福祉学研究科

保健医療学専攻（修士）

ディプロマ・ポリシー

1.国際医療福祉大学の基本理念と教育理念とを充分に理解し、専門職業人として「共に生きる社会」の実現に貢献する強い意志を涵養できている。
2.医療福祉分野において明確に目的意識を持ち、専門職業人としての使命感、倫理観など医療プロフェッショナリズムを備え、専門分野での研究や臨床を実践できる。
3.専門分野における幅広い知識、技能と判断力を修得し、専門職業人としての論理的思考や深い学識を養い、卓越した教育、研究あるいは臨床能力を十分に発揮できる。
4.実践家あるいは教育・研究者としての自立性を確立でき、優れた実践能力やコミュニケーション能力と国際性を培い、指導的立場で活躍できる。
5.（看護学分野 管理実践看護学領域のみ）複雑化する保健医療福祉の課題を分析し、解決策を提案ならびに、政策提言を行うことができる。
6.所属分野が特定の修了要件を要求する場合、それを満たしている。
7.修士および博士課程の修了要件として、①大学院学則に定める修業年限以上在学し、②授業科目について所定の単位以上を修得し、③必要な研究指導を受けた上で、修士課程においては修士論文の作成または課題研究を行い、修士論文審査（または課題研究成果の審査）および所定の試験に合格した者、博士課程においては博士学位論文の作成を行い、博士学位論文審査および所定の試験に合格した者を修了とする。

【注意】
・科目名は分野・領域ごとに異なる
・医療系専門職の資格を取得する分野は修了後、受験もしくは資格取得申請が必要な場合がある
・修了要件は各分野・領域ごとに異なる

	共通科目	専門科目		
		講義科目	演習・実習科目	研究指導科目
	医療福祉に関する高度な学術知識を身に着ける	自らの専門分野における研究の基礎となる知識を修得する	医療福祉の高度専門職としてのスキルを修得する	学位に相応しい研究を遂行し、成果をまとめる

1年次 前期

・研究遂行の基礎となる技能を修得する
・研究倫理に関する知識を身に着ける
・研究計画を策定する

A:研究・教育の方法
・研究倫理特論
・修士課程のための研究法入門
・統計学入門
・質的研究法概論
・英語論文執筆演習
など

B:人間・集団
・疫学概論
・人口問題と政策
・医療福祉における栄養学
など

C:保健・医療・福祉
・医学概論
・最新の医療福祉の動向Ⅰ・Ⅱ
・災害医療論
・がん医療総論／各論
など

D:経営と管理
・医療経済学概論
・医療福祉政策・管理学概論
・医療福祉連携論Ⅰ・Ⅱ
など

E:情報
・医療情報システム概論
・医療福祉面接記録法
など

講義Ⅰ
看護学研究法Ⅰ、臨床病態生理学Ⅰ、基礎助産学特論Ⅰ、基礎理学療法学講義Ⅰ、作業活動分析学講義Ⅰ、言語聴覚障害学講義Ⅰ、視機能療法学講義Ⅰ、福祉支援工学講義Ⅰ、リハビリテーション学講義Ⅰ、医用画像学講義Ⅰ、生殖補助医療胚培養基礎系講義Ⅰ、教育方法・評価論Ⅰ、臨床検査学講義Ⅰ、災害危機管理Ⅰ、基礎人類遺伝学Ⅰなど

演習Ⅰ
看護管理・政策学演習Ⅰ、基礎理学療法学演習Ⅰ、作業活動分析学演習Ⅰ、言語聴覚障害学演習Ⅰ、視機能療法学演習Ⅰ、福祉支援工学演習Ⅰ、リハビリテーション学演習Ⅰ、医用画像学演習Ⅰ、臨床検査学演習Ⅰ、災害危機管理演習Ⅰ
など

研究指導Ⅰ
文献検索とクリティーク、研究計画
など

1年次 後期

M1研究報告会

・データの収集をする

研究指導Ⅱ
研究デザイン、データ収集など

2年次 前期

M2研究報告会

・データを分析する
・修士論文にまとめる

講義Ⅱ
看護学研究法Ⅱ、臨床病態生理学Ⅱ、基礎助産学特論Ⅱ、基礎理学療法学講義Ⅱ、作業活動分析学講義Ⅱ、言語聴覚障害学講義Ⅱ、視機能療法学講義Ⅱ、福祉支援工学講義Ⅱ、リハビリテーション学講義Ⅱ、医用画像学講義Ⅱ、生殖補助医療胚培養基礎系講義Ⅱ、教育方法・評価論Ⅱ、臨床検査学講義Ⅱ、災害危機管理Ⅱ、基礎人類遺伝学Ⅱなど

実習
公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ、生殖補助医療胚培養実習など

演習Ⅱ
看護管理・政策学演習Ⅱ、基礎理学療法学演習Ⅱ、作業活動分析学演習Ⅱ、言語聴覚障害学演習Ⅱ、視機能療法学演習Ⅱ、福祉支援工学演習Ⅱ、リハビリテーション学演習Ⅱ、医用画像学演習Ⅱ、臨床検査学演習Ⅱ、災害危機管理演習Ⅱ
など

研究指導Ⅲ
データ収集と分析
など

2年次 後期

学位論文審査

研究指導Ⅳ
論文作成など

研究発表会

修士論文/課題研究

学位取得